

## 砂坂孫左衛門の碑及び業績

分類：天然記念物（史跡）

町指定文化財：昭和 55 年 4 月 9 日指定

西之地区

町指定文化財

砂坂孫左衛門の碑及び業績

砂坂孫左衛門の碑は、官造牧から西の海岸に降りた高瀬原にあります。この高瀬原付近は断崖絶壁で通路がなく、干潮時は危険な磯つたいを、満潮時は山手の急な道を3倍近くも遠回りして通るといふ大変不便なところでした。この難所に独力で道を開通させたのが砂坂孫左衛門です。碑は、その業績をたたえ後世へ伝えていくために、昭和2年西之青年会により建立されました。

孫左衛門は文政9年（1826）砂坂に生まれました。温厚かつ親切で意志の強い仕事熱心な人だったそうです。生家は裕福でしたが、子供に縁が薄く、何人もの子供を失い、残った娘も病気にかかってしまいました。孫左衛門は平癒を神仏に願い、人々のために高瀬原に道を作ることを決心しました。時に明治4年45歳の時でした。孫左衛門は、家業の合間を見て道路づくりに励みました。

その道路づくりは、大きな岩石の上で火を焚き、海水をかけて急激に冷やし、岩をもろくして砕くといった大変な労力が必要な方法でした。作業中、願いかなわず娘は世を去ってしまいましたが、孫左衛門は道路づくりを続けました。その強い熱意に感動した集落の人々もいつしか孫左衛門に協力するようになり、ついに明治10年8月、12町（1,300 m）余りの道が完成しました。この功績に対し、明治23年県知事から表彰を受け、さらに戸長から田地4畝（4アール）を贈られました。孫左衛門は、大正元年87歳でこの世を去っていますが、その不撓不屈と奉仕の精神は今なおこの地に生きています。



砂坂孫左衛門翁之碑



砂坂孫左衛門之墓